

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム青空	評価実施年月日	平成21年11月1日～平成21年11月20日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年11月1日～平成21年11月30日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「地域に根ざした穏やかな暮らしを大切に、利用者の命と心のケアと家族の心身の緩和に努めます」地域密着型サービスの意義を確認して地域の関係性を重視した理念を大切にしている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員は理念を記載したカードを常時携帯していて述べるができる。地域の行事に参加して地域との繋がりにふみ出している所です。理念がケアに反映されているか確認している</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>入居時、ご家族に「説明書」の中で文書、口頭で説明している。運営推進会議のメンバーに町内会会長さんに出席して頂いて地域密着型の理念を理解して貰っている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>町内会に加入しています。買物、散歩に行った時に挨拶し、声をかけている。回覧板、広報を持参してくれるので笑顔で対応している。またホームを見学案内して親近感を持って頂くようにしている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>近くの小学校の運動会、学習発表会を見に行ったり、小学生が歌や踊りのボランティアに来ている。管理者が町内会総会、新年会に出席し、春、秋の清掃に参加し交流している。地域の夏祭り、秋祭りに行きました。</p>	○	老人福祉センターを見学訪問する。
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議に町内会会長さんが参加されて講和を聞いたり様々な質問をして対策案を持ち帰っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が不満、苦情がないように日常のサービスに気をつけている。利用者本人が意見や思いやりを伝えられる機会を作り話しやすいような関係づくりしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族の面会時やホーム便り等での連絡のほか必要時電話連絡して報告している。金銭出納の明細も毎月郵送している。時々写真、一筆箋も同封している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の方が来訪した時に意見や要望を伺ったりして苦情がないように心がけている。「苦情相談窓口」の説明書を入居時『重要事項説明書』の中で詳しく文書と口答で説明し交付している、又ホームの見やすい所に掲示している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度総括管理者と会議を開いて、意見交換し実践に活用している。毎朝申し送り後フリートークして意見を出したり問題点があればその日のうちに話し合いを持っている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	早出、日勤、遅出、夜勤とローテーションを組んでいる。一ヶ月前には勤務表が出来ているので状況の変化により勤務調整はスタッフが納得して実践している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は人事の件にも理解がありよく話しを聞いて頂いている。スタッフは離職する場合は一度に重複しないように心得ている。離職、異動は必要最小限になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職場での学習会に参加している。G・H協会の「スタッフ研修」を受講している。研修報告会を開いて報告書も全員が目を通してしている。研修のパンフレット、文献の提供をして学習の動機付けをしている。</p>	<p>○ 「認知症スタッフ研修」の受講</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>区のグループホーム管理者会議に出席して、勉強会、ネットワーク作りをしている。他のユニットの職員と情報交換していい所を取り入れている。近くのグループホームの施設見学だけだったので今後実践的な交流を図っていきたい。</p>	<p>○ グループホームとの交流</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>他のグループホームやケアハウス職員と交流したり相談し合っている。休憩場所は冷暖房設備も整っており、ゆっくり休めるようになっている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>月曜日に法人職員が集まり朝礼があり運営者から色々なお話があります。そして毎回全員で「私たちの導標」を唱和もします。また毎朝の巡回時、温かい声かけを頂きます。時々総括管理者より助言等があります。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人の話を良く聞いて、受け入れてあげる。否定はしない。どんな事でも聴いて下さいと、やさしく話しかけて相談しやすい場を作っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>話しやすい雰囲気を作り、困っていること、不安なこと、求めていること等を真剣に聞いて受け止める姿勢を持っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族が必要としている支援の妥当性を判断してサービスを検討している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所時はまず場に慣れることを優先に考えている。最初は見守りして場の雰囲気に馴染んでから徐々にサービスを開始する。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	洗濯物たたみ、テーブル拭き、カーテンの開閉など各自の出来ることをしてもらい満足感を持っている。そして笑顔と感謝の言葉を忘れないで返している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に声掛けし様子を伝えたり家族の要望などを聞きいつでも気軽に伝えたり相談出来るようにしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族が気軽に訪問が出来て居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。行事予定表を貼り出したり、グループホーム便りで行事の様子を伝えて行事参加を促している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	兄弟姉妹の交流、町内会行事、神社、寺院の行事の参加促進を家族と相談して支援している。馴染みの方が面会に来た時には、これまでの関係を継続するように働きかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	強制はしないが入居者が全員集まれるような機会(リハビリ体操、ゲーム、ティータイム、コーラスなど)を多くもって交流を深めるようにしている。 気の合う入居者同士が居室訪問して談話している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	行事のあるときに前もってしらせて参加するように連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の入居者にわかるように話しかけ、訴えてきた時には十分に話を聞く、顔を見ての対話をするように努めている。選んでもらう場面を作ったり選ぶのを待つ等の促す取り組みをしている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時にライフヒストリーを記載していただいて把握に努めている。 不明な点は家族にも話を伺っている。時々本人に話しかけて回想して貰っている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者は日々の暮らしの中で自分で決めたり希望を表したり、職員は出来るだけ見守りを重視した入居者のペースに合わせることを大切にしている。 朝の申し送り後に話し合いを持ち情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者一人一人の状態像、生活特性、入居者や家族の求めていることを把握し希望、意見を取り入れながらアセスメントし課題を明らかにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	実施期間を明示しており、計画見直しを行なっており状況に応じて話し合いをもちプランの見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録があり、状態変化のあるときは特に詳しく記録している。介護職員間で意見交換をし情報を共有しながら実践している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	専門医受診の付き添い、買い物の付き添いを職員の勤務を調整してサービスを入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	保育園児、小学生の訪問があり歌や踊りを披露している。近隣の方が手品、大正琴のボランティア、地区の神社の子供御神輿があります消防署職員の方が『防火講和』をして頂きました。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	協力医療機関で機能訓練、音楽療法サービスを受けている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に出席していただいて意見を伺ったり助言を頂いている。「高齢者の虐待について」のお話をして頂きました。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	経営母体の医療法人で入居者の健康に関して全面的に相談できる仕組みになって夜間も受診出来る体制になっている。 状態により専門医受診(眼科、耳鼻科、肛門科)の支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関に専門医が常勤しており相談したり診断治療を受けています。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が健康管理や医療活動の支援をしている。 経営母体の看護師も馴染みの関係になっており気楽に相談している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合は居室を確保して早期退院に向けて相談する体制になっている。 病院関係者と連絡を取り合ったり、見舞いに行き情報交換をして早期退院にむけて話し合っている。経営母体の病院と医療連携をとっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	主治医と本人と家族と共に話し合い今後の方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	協力医療機関とつながっているので即入院できる体制になっている。 看取り介護と重度化対応は可能と文書になっているが現在までは取り組んでいない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ケア関係者で話し合いを持ちその内容を文章にして詳しく情報提供している。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者一人一人を尊重しプライドを傷つけないように対応している。個人情報の文書も作成している。年長者として敬意を払い本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをしている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人一人に判りやすい声掛けをして自己決定しやすいように対応している。難聴の方にはボードを用いて筆談でコミュニケーションをする時もあります。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ホーム内外のレクリエーションの声掛けはするができるだけ入居者のペースに合わせて個々の意向にそった支援をしています。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>清潔感を保てる様な声掛けをし服装や髪型などをほめたりしてお洒落を支援している。月に二回理美容できるシステムになっており希望に合わせている。外出して馴染みの美容院に行ってる方もいる。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員と一緒に食事をして入居者の食べ方を見守りながら食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。出来る範囲の食材の下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳のお手伝いしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつを希望する人と一緒に買い物に行って自分の好みの物を購入している。お茶、コーヒーの希望時はその都度支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを個別に記録して把握している。さりげなく声掛け誘導して失敗しないように介助している。失禁時はプライドを傷つけないように、さりげなく支援している。夜間は歩行機能低下している方は車椅子で介助している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週二回しているが希望に合わせている。一人ずつ入浴しゆっくりくつろいで入浴を楽しめるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者の状態を見て疲れが見られる場合は声掛けをし、自室で休息できるように支援している。ソファで居眠りしているときには掛け物をかけて気持ちよく休息できるようにしている。夜眠れないときは暖かい飲み物を勧めたり、話相手になったりして心の安定を図っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入所時生活歴を記載していただき把握している。食器洗い、テーブル拭き、洗濯物たたみ、手芸、庭仕事等各自の能力にあった役割を持っている。トランプ、オセロゲーム、ボール遊び、歌、散歩などで気晴らししている。お願い出来そうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理の可能な人は家族との相談の上、少額だけ所持している。本人と一緒に売店におやつを買いに行ったり、希望の品を本人に代わって購入している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	1人一人の希望に沿って車椅子利用の入居者も病院の多目的ホールで様々な催しに参加したり、毎日渡り廊下を通して散歩コースになり外出気分を味わっている。雪の無い季節は中庭や近所の散歩をしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	花見、小学校の運動会、学習発表会、地域のお祭りに出かけている。バスドライブを計画して海、駅、紅葉狩り、ショッピングセンターへ買い物に行きました。家族様にも機会をみつけて外出支援を頂けるようにお話をしております。	○	バスドライブを継続する。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	テレホンカードを持っている方もおり、希望により公衆電話に誘導、介助している。ホームの用事で電話するときは利用者も電話口に出て、家族とお話しています。時々ハガキ、手紙のことを話題にして促しています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問者にはお茶を提供して笑顔で歓迎している。気軽に声掛けや話をして、来やすい雰囲気になっている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「重要事項説明書」の中で利用者の権利に身体的、精神的拘束を受けないと書かれている。当グループホームの方針で一切身体拘束の無いケアを実践しており職員も認識している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ホームの出入りの確認は常時なされている。出て行きそうな入居者には特に注意見守りして居室や日中玄関には鍵をかけていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	記録を書く場所や調理場が入居者の個々の動きが見える位置にあり、束縛感をもたないように見守りして所在や様子を把握している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬や洗剤、刃物は入居者の目に付かない場所に保管し、施錠している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人のリスクを把握している。ケアプランにものせて束縛感のない見守りをして事故防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時の対応については職員は管理者の指示で応急手当を行い、即医療機関に繋げることを実践している。消防の「救命講習」に参加し学習しました。今後も参加する計画をしております。誤嚥時の吸引チューブを備えている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年二回消防訓練があり安全に避難誘導をしている。併設施設の協力体制ができている。町内会長さんへ地域の人々の協力をお願いしたり、町内会の行事に参加した時に災害時の支援のお話をしています。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ケアプランを交付する時、家族の面会時又は電話連絡で現在の利用者のリスクを十分に説明し話し合って理解をしてもらっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の生活状況を知り何時もと違う状況があればすぐバイタル測定し速やかに協力病院に情報を伝達し、指示を受けるようにしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の入居者の薬剤情報をファイルに入れており、直ぐに見られる場所に置いてある。服薬目的、内容、用法、副作用を理解し、服薬の見守り、又は介助して医師の指示通りに服薬できるように支援している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	野菜を良く食べるように促したり、水分補給をしたり散歩などで積極的に運動をしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後三回歯磨きの習慣化している。できない方には声掛けして出来るところまで見守りし、不足部分は介助している。義歯消毒は週二回職員がしている。高齢者が多いので昼食前に嚥下体操を行なっている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士が献立作成し栄養バランスを考慮している。入居者の一人一人の摂取量は3食把握して記録している。毎食時配茶、午前、午後水分補給の時間を確保している。散歩後、リハビリ後、夜間も声掛けして水分補給をしている。むせのある方にはトロメリンを使う時もある。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルがあり予防に努めている。毎日の清掃を徹底する。日常的に手洗い、うがいの励行している。面会者への注意を入口に掲示している。院内研修もあり参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食器は乾燥機を使っている。布巾、台拭きは毎食後消毒し、まな板は夕食後消毒している。食材は冷蔵庫に保管し調理したものは早く食べてもらい、残ったものは破棄する。生ものは当日配達してもらい新鮮なものを使うようにしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りの庭に花や木などを植えてあり玄関の入り口には親しみやすい置物などを置き、気軽に入りやすい雰囲気になっている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>食堂には季節の花を飾っており、壁には季節を先取りした絵などを飾り、居間には植木を置いている。廊下、居間、食堂の窓が大きく中庭や外の景色を見ることが出来る。日差しの強い時にはレースのカーテンで調節しています。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>廊下の数ヶ所に気楽に話が出来るように木製のベンチを置いている。居間のソファでテレビを観たり居眠りしたり、食堂で気のあった同士が雑談しています。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>使い慣れたタンスやテーブル、椅子などの家具を使用している。家族の写真、プレゼントされた飾り物とか、思い思いのものを置いて楽しんでいる。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>各居室には空調が設置してあり、その場に応じて強弱を調節している。温度計もありこまめに温度調節している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内はバリアフリーになっている。廊下、トイレには手すりがついていてトイレは広く車椅子、歩行器も使用可能になっている。廊下も広く車椅子や歩行器で運動している。浴室にも手すりがついていて、浴槽内には滑り止めマットを使用して安全に配慮している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレには「便所」の張り紙、居室の入り口にはそれぞれ、のれんをかけて混乱しないように工夫している。各居室のドアも色で判るようになっています。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭があり散歩を楽しんだり畑に野菜を作ったりしている。前庭も広く草花が植えられ手稲山も見えて散歩コースになっている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	◎①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ◎②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	◎①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ◎③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ◎②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	◎①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	◎①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	◎①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

☆個人の尊厳を考慮し入居者のペースの尊重、身体拘束のないケアを実践している。

☆職員は出来るだけ見守りして、出来ない所を支援し、残存機能の維持に心がけ自立支援を図っている。

☆経営母体が隣接する医療法人で入居者の健康に関して全面的に相談できる仕組みが確保されている。また管理者は看護師で入居者と家族の安心につながっている。

☆平均年齢も高くなり身体機能の低下している入居者が多くなっていますが、法人の多目的ホールで色々な活動があります。ホームに閉じこもることなく

渡り廊下を通して外出気分を味わい気分転換をしている。